

はじめに

「孤立死」という言葉を耳にして、私たちはどのようなことを思い浮かべるでしょうか。例えば、訪問や電話などが誰からもなく、他者との接触が全くない暮らしがそこにあったことや、亡くなってから数ヶ月、極端なケースでは1年以上を経てから発見される場合があるといったことなどが連想されます。それでは、どうしてこうしたことが起こるのでしょうか。

私たちは、生まれたときから家族、友人、知人などの他者との関わりなどを通して成長し、お互いの助け合う関係をもとに豊かな暮らしをつくってきたはずです。しかし、私たちの暮らしが豊かになり、社会の仕組みが便利になればなるほど、皮肉なことに隣人関係は薄れ、もともと他者との関わりがあって成り立つものが、その関わりを必要としない「生活の個人化」へと進むことになったのです。その結果、「地域」のつながりが薄れ、ただ単にそこに居住している、という関係以上のものが育たない場になってしまったことが大きな要因です。

それでは「孤立死」を防ぐにはどのようなことが必要でしょうか。一つには、中長期的な取組みとして、「地域」とは何か、ということを一人生者が問い直すことです。例えば、親が小さな子どもを安心して外で遊ばせることができるのは「地域」の目があるからではないでしょうか。この場合の「地域」は、人と人とが相互に関わりあう関係があることを意味します。今こそ地域に関わる人々、関係機関・団体などが「孤立死ゼロ」をきっかけに自らの地域について考え、行動を起こすことが求められています。

二つには、まさに、いま起こる「孤立死」をどう防ぐかということです。札幌市は、平成19年10月に「さっぽろ孤立死ゼロ推進会議」を設置し、同年12月に「さっぽろ孤立死ゼロ推進センター」を開設して、「孤立死ゼロ」の取組みを本格的に開始しました。さまざまな啓発活動とともに、特に、札幌市特有の問題としての集合住宅（マンション）に焦点をあてモデル事業に取組みました。具体的には、都市の利便性の象徴である集合住宅（マンション）が、住民の高齢化とともに逆に「孤立化」の危険性をより深くもっていることに着目して平成19年度・20年度の2カ年にわたって取組んだものです。

本報告書は、その結果をもとに地域で孤立死を発生させないための取組み方法についてポイントを絞って、分かりやすくまとめたものです。今後の高齢者の孤立死防止を進めていく上での参考としてご活用いただけたら幸いです。

さっぽろ孤立死ゼロ推進会議委員長 **林 恭裕**（北翔大学人間福祉学部教授）

目次

はじめに

I 高齢社会における札幌市の現状・・・・・・・・・・ 1

- 1 高齢化が進む都市部
- 2 65歳以上の単身・夫婦世帯の急増
- 3 地域の再生と新たなコミュニケーションづくりの必要性

II 孤立死ゼロに向けた取組みと経過・・・・・・・・・・ 3

- 1 さっぽろ孤立死ゼロ推進会議の設置
- 2 さっぽろ孤立死ゼロ推進センターの設置
- 3 さっぽろ孤立死ゼロ安心ネットワークモデル事業の概要
 - 1) 孤立死防止活動の3本柱
 - 2) 孤立死防止活動の手順
 - 3) 各マンションの活動事例

III 孤立死をなくすための地域の取組み・・・・・・・・・・ 10

- 1 見守り・安否確認の考え方
- 2 さりげない見守り・安否確認
- 3 訪問活動
- 4 対象者の決め方
- 5 誰が活動するのか
- 6 専門機関等との連携
- 7 ふれあい・いきいきサロンのすすめ
- 8 緊急時の対応
- 9 その他の取組み事例

資料編・・・・・・・・・・・・・・・・・・16

- 資料-1 安心できる老後のマンション暮らしのためのアンケート
- 資料-2 ふれあいカード（個人面談表）
- 資料-3 70歳以上独居居住者宅一覧
- 資料-4 70歳以上独居高齢者との面談結果（まとめ）
- 資料-5 見守り安否確認カード
- 資料-6 いつでも安心カード（表面・裏面）
- 資料-7 異変連絡用メモの記入方式
- さっぽろ孤立死ゼロ推進会議設置要綱
- さっぽろ孤立死ゼロ推進会議委員

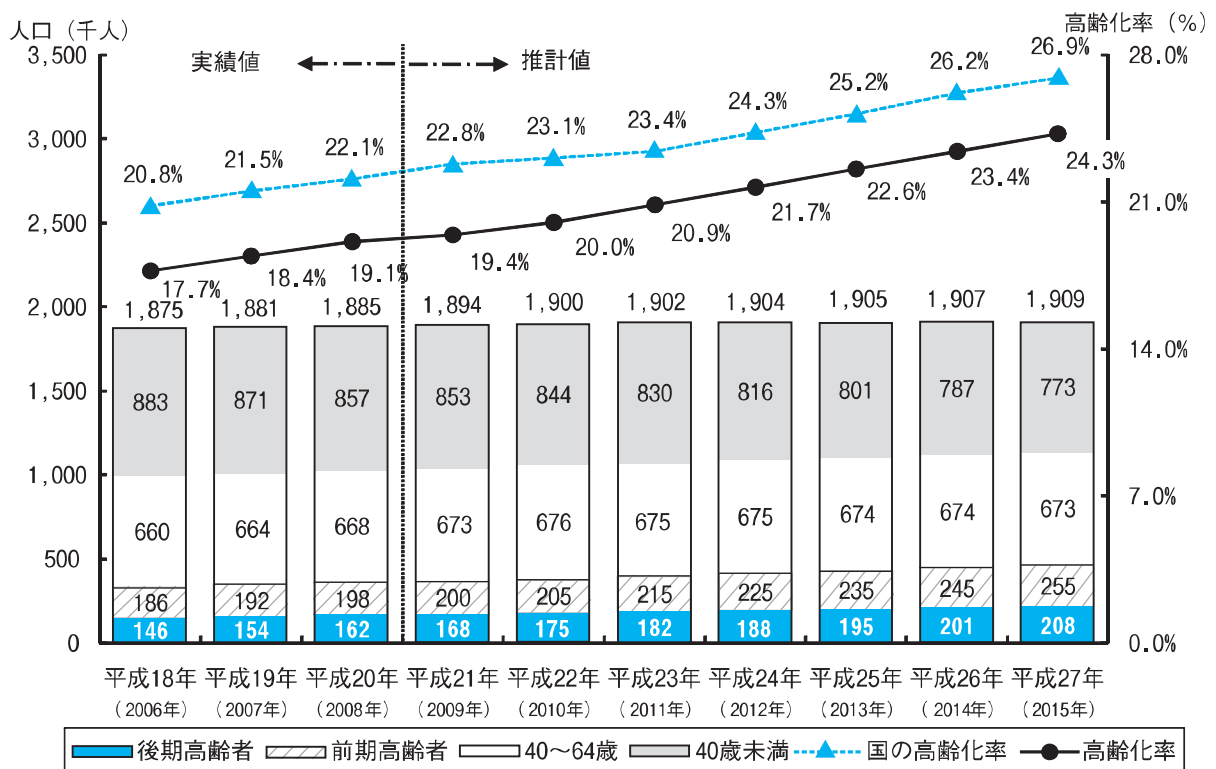
I 高齢社会における札幌市の現状

1 高齢化が進む都市部

かつての都市社会は、若者が集まる「若い街」と言われていました。しかし2009年に「団塊世代の最後の年」とされている昭和24年生まれが還暦を迎える今、状況は大きく変わりました。サラリーマンが圧倒的に多い団塊世代は、これまで都市部に集中しておりましたが、今後、都市部の住民の高齢化が急速に進むこととなります。

このことは、札幌市も例外ではありません。高齢化率が全国平均に比べて低いとはいえ、団塊世代が65歳になる2015年には、高齢化率が24.3%と急増し（図1）、その対策が急務になっています。

図1 札幌市の人口と高齢化率の推移



「第5期札幌市高齢者保健福祉計画・第4期札幌市介護保険事業計画」より

2 65歳以上の単身・夫婦世帯の急増

また、札幌市における65歳以上の高齢者で単身の世帯数は、1995年で3万世帯強、2005年には6万世帯強と倍増し、夫婦世帯も1995年と2005年を比較すると約1.5倍となっており（図2）、自分の子どもと別居している世帯が多くなっていることが数字から読み取れます。